

NPO法人地域生物資源研究所は、地域住民及び農林水産・工・商各業の従事者に対して、自然環境の修復・保全・利活用及び地域産業の再興・創成に関する事業を行い、地球温暖化問題への対処、地域自然環境の浄化、地域産業の振興に寄与することを目的として活動をしている団体です。

ドウマン（ノコギリガザミ）の養殖

浜名湖の特産品ノコギリガザミは胴体が丸いので胴丸と言われたのがなまって、浜名湖ではドウマンと言われ、ハサミが大きいのが特徴です。

「幻のカニ」と言われるほど希少で、日本では沖縄と高知県の浦戸湾、岡山県の玉野市、浜名湖にしか生息していないドウマンを、マングローブを植えた元養鰻池で養殖。マングローブ池での養殖は大変珍しい取り組みです。

養殖に取り組んで5年ほどで養殖技術を確立、さらに効率の良い養殖法に取組み大量生産ができるようになれば、浜名湖地域だけでなく東南アジアの資源保護にも貢献できると考えています。

エサには浜名湖で採れたものの食用には向かないため処分されてしまう雑貝を活用しています。

卵から孵化させて養殖していますが、共食いを避けるために1匹ずつ飼育しています。波の静かな内湾や河口の汽水域などに生息するドウマンの生息環境に合わせた環境づくりをするなどの作業は大変ですが、好きなことなので続けることができました。

学校との連携

浜松市西区和地町の浜名湖畔にあり、環境保全活動の植林（マングローブ）などの自然教育や国際活動で知られるオイスカ高校の生徒が協力してくれ、養殖池の中のヘドロや水槽の藻の掃除、メヒルギの植付け等を手伝ってくれました。

学校では環境保全教育とともに地元にも貢献し、養殖技術の確立で海外にも広まることが、生徒たちにとって素晴らしい経験や自信になるという期待を込めてくれています。

周辺環境の影響

元々はウナギを養殖していた養鰻池を改良してドウマンの養殖池にしましたが、周りの養鰻池が埋め立てられた環境の変化等で、水質保持に影響が出たこともあり、繊細なドウマンの養殖には苦労が絶えません。



養鰻池やソーラーパネルに囲まれた養殖施設 (浜松市西区雄踏町)



ドウマン



繁殖した藻やヘドロの掃除

浜名湖の湖岸にもマングローブ



メヒルギ

マングローブの語源は、マレー語で潮間帯（満潮になると海水が満ちてくるところ）に生育する樹木の総称を表すマンギ・マンギ (mangi-mangi) に、英語で小さい森を表す (grove) の合成で、熱帯や亜熱帯地域の河口などの潮間帯に生えている植物をまとめてマングローブと呼びます。

東南アジア、インド沿岸、南太平洋、オーストラリア、アフリカ、アメリカ等に分布、日本では沖縄県と鹿児島県に自然分布し、本州にも人工的に移植された場所があります。

マングローブは干潟の環境の性質を持ち、河川の上流や海から供給される有機物が集まって分解される場所であるため、多様な生物が生息しています。

浜名湖ではオイスカ高校がメヒルギを育て、毎年8月には花が咲き、採取した種子で栽培面積を増やしています。

【連絡先】

E-mail: admin@local-bio-lab.or.jp

☎090-4797-1456 久保さん (代表)



浜名湖エコキッズ体験塾in新居(浜名湖ミナトリング2019)報告

令和元年7月13~14日に湖西市の浜名港で開催された「浜名湖ミナトリング2019」で、生きもの観察会や展示等の出展をしました。

このイベントは浜名湖周辺で育まれた歴史・文化・産業、レジャーや食材などを楽しんでもらい、浜名湖の魅力を発信する取り組みで、浜名湖の「豊かな自然環境」を発信するため、浜名湖魅力発信隊のメンバーとして参加しました。

エコキッズ体験塾には約60名の親子が参加し、浜名港を船で出発してカキ棚の見学、いかり瀬に上陸して浜名湖の環境について学び、いきもの観察を体験してもらいました。

カキ棚の見学では、おいしいカキを育てるために、夏は水温の低い奥浜名湖へ移動し、冬にまた表浜名湖にもどす作業をしていることなどを漁師さんに教えてもらいました。

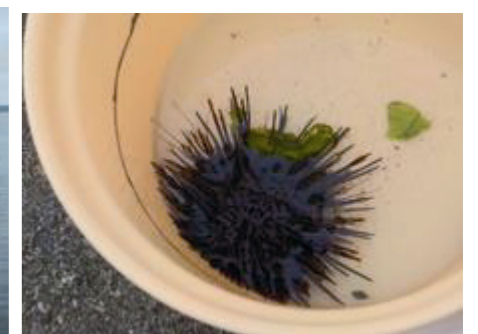
いかり瀬では、海のゆりかごとと言われる「アマモ場」で、ハコフグ、オコゼ、カワハギ、ヨウジウオの幼魚などの多くの魚介類を見ることができ、観察会で初めてウニを捕獲しました。その他にも、脱皮したばかりのガザミ、ウミウシ、クラゲなどを観察し、最後は、「大きく育ててね!」と願いを込めてリリースしました



船に乗って、漁師さんから説明を聞きながら、カキ棚を見学



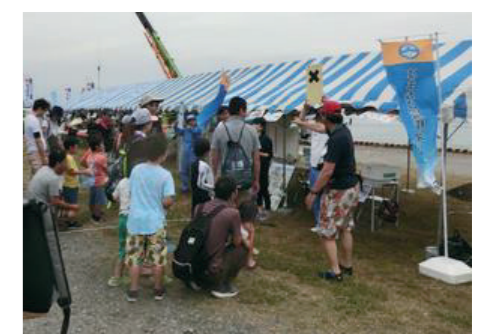
いかり瀬でのいきもの観察



いかり瀬観察で初めて捕獲したウニ

展示ブースでは、いかり瀬のいきもの写真展示や浜名湖の魅力を紹介、浜名湖のおいしい恵みが賞品となった「浜名湖クイズ」で、浜名湖のいきものに関する問題なども提供し、エコキッズに参加したご家族が、講座で学んだことを活かして、優勝しました。

その他のネットワークメンバーも、ソーラーキッチン(OMソーラー)、EMダンゴ・アマモ堆肥で育てるペットボトルプランター作り(EM倶楽部/湖西)、放置竹林の竹を活用した工作体験(浜松地域資源活用研究会)などの体験エリアに出展して、環境に関する啓発をしました。



「浜名湖クイズ」の様子

【お知らせ】

「海洋プラスチックごみ問題」に関する勉強会(浜松市環境政策課主催)を開催します。詳細は後日ホームページ・チラシ等でご案内しますので、ご参加ください。

日時: 令和元年11月17日(日) 9:00~12:00

場所: 庄内協働センター(集合・座学) 館山寺サンビーチ(フィールドワーク)

活動団体紹介1

NPO法人ひずるしい鎮玉

NPO法人ひずるしい鎮玉は、浜名湖の上流部に位置する浜松市北区引佐町の北部・鎮玉地区の農地や山林の活用・保全事業、地域資源開発を行い、地域の活性化、交流人口や定住人口の増加、里山環境の維持・再生に関する活動に取り組んでいる団体です。

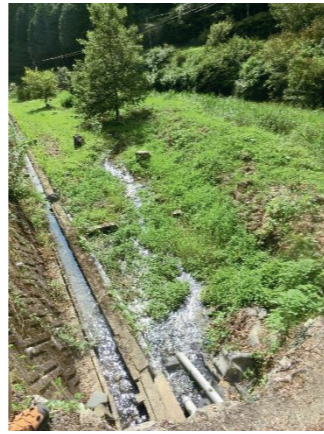
ホタル保全のための川辺の草刈りやピオトープづくり、有休農地を活用した“田んぼのオーナー制度”、川でのイベント開催などの活動をしています。

手作りの「ピオトープ」

2013年から勉強会をはじめ、環境影響評価の専門家から利用目的の明確化の必要性や管理・運用についての課題について学び、県内のホタルのピオトープ視察をして、設計・建設へと進めていきました。

2014年3月に有休農地を活用し、地元の小中学生も巻き込んで地域の方々の協力でピオトープづくりがスタート。

昨年秋には、常葉大学の協力で生態調査と補修作業、水草の移植などの作業をし、地域の子もたちに生態調査で捕獲した生きものや鎮玉地域の生物の保全について紹介しています。カエルを捕まえて食べる水生昆虫の様子には子どもたちが大きな驚きの声をあげていました。



別所川の清流を引き込み

多くのいきもの

水中にはメダカなどの小魚、カワニナ、サワガニ、水辺には環境省が準絶滅危惧種に指定したトノサマガエルがいます。

水中から伸びるフトイの茎にはトンボに羽化したヤゴの抜け殻がついていて、トンボや蝶が水辺を飛び交っています。

湿地には食用にもなるセリ、小川にはクレソンが茂っていました。クレソンは外来種ですが、ホタルの餌となるカワニナの食糧となっているため、駆除はしていません。



フトイなどが生える止水域

川辺の草刈り・・・お日様の恵み！

ピオトープ設置に向けた勉強会で、ホタルをかつてのような状態に戻すためには、ホタルが発生する河川に日が当たるようにすることが必要だということを知り、川辺の草刈りを行っています。

川辺の草を刈ることで川に日光が届き、ホタルの餌であるカワニナの餌となる藻の生育が良くなるため、山に手が入らなくなったため川辺に草木が生い茂り、川に日が当たらないところを改善することが、ホタルの保全につながっています。

ホタル！！



ホタルは主に熱帯から温帯の多雨地域に分布し、世界にはおよそ2,000種が生息しているとされ、日本には約50種類ほど生息、発光するホタルは14種類程度で、ゲンジボタル・ヘイケボタル・ヒメボタルが有名です。

日本で「ホタル」といえば、本州以南の日本各地に分布し、5月から6月にかけて孵化するゲンジボタルを指すことが多く、日本にしか生息していない“日本固有の種”です。

ピオトープの見学等については、事前に事務局まで連絡をお願いします。

【連絡先】 E-mail : info@shizutama.jp ☎053-544-1045 廣瀬さん（事務局）
ホームページ http://shizutama.jp

活動団体紹介2

ブルー・レイク・プロジェクト

ブルー・レイク・プロジェクト（株式会社 BLUE LAKE Project）は浜松市北区三ヶ日町で育った3人が、イベント等を通じて地元の魅力を発信し、地元へ貢献したいという気持ちで起業した会社です。

三ヶ日中学校と協力して、養殖したカキを使った商品開発や水質浄化を期待できるカキを浜名湖で養殖する構想など、“きれいな湖を未来に送る”ための活動をしています。

浜名湖の水をきれいに！

自分たちが子どもの頃は水がきれい猪鼻湖で泳いだりして親しんでいましたが、湖とふれあう機会が減っていると感じ、“もっといろいろな人に浜名湖を知ってもらいたい！”という思いで活動しています。

浜名湖北部の猪鼻湖は一時期水質が悪化しましたが、様々な取り組みにより、水がだいぶきれいになってきました。そんな浜名湖・猪鼻湖の魅力を知ってもらい、浜名湖と接する機会を増やし、応援したい人を増やす目的でゴミの回収や体験イベント等を開催しています。

また、カキの養殖や養殖カキの商品化への協力で、水質浄化を目指す取り組みにも協力しています。



浜名湖をきれいに！
湖岸のゴミ拾いの回収作業

浜名湖の自然とふれあうイベントの開催

今年の7月7日には、全国で一斉に開催された、気候変動対応力向上プログラム「水辺で乾杯2019」に参加し、奥浜名湖を舞台に「竹灯籠づくりwith光でつなぐ水辺で乾杯」イベントを開催し、多くの人に水辺に親しんでもらいました。

その他にも、環境にも優しい自然農法の野菜栽培や地引網体験はじめ、自然の中で思いっきり遊んで、浜名湖を体中で感じるような、ワクワクとドキドキが詰まったイベントを開催しています。

お子さんから大人まで楽しめますので、ご家族そろってご参加ください。



竹灯籠

地元中学校や活動団体との連携

三ヶ日中学校との連携でカキのオーナー制度を検討しています。

「オーナーによる投資 → 販売 → オーナーへの還元」というプラスのスパイラルを目指し、同じように中学校と連携して活動している「わらの会」のメンバーとも連携して課題解決に向けた取り組みをしています。



三ヶ日中学校の勉強会

サステナブルを目指して、会社組織に！



三ヶ日町では町おこしの活動が盛んで、「猪鼻湖に眠る太平洋戦争の歴史的遺産『幻の戦車』調査プロジェクト」など、地元で様々な活動実績がありますが、活動を継続していくためには資金も必要と考え、環境に貢献できて収益が上がることをしていくためにシステム化することが持続につながると考え、サステナブル（持続可能）にチャレンジするために会社組織にしたそうです。

住民グループ「わらの会」が活動を実行し、ブルー・レイク・プロジェクトがその活動を発信し広めるなど、地域ぐるみで役割分担をしているそうです。

情報発信することで、協力者が増え「オール三ヶ日」から「オール浜名湖」へ、そしてきれいな浜名湖をみんなが楽しめるようにしたいと応援してくれる人が増えることで活動が推進されるという効果が出始めているそうです。

【連絡先】 E-mail : info@bluelakeproject.com ☎090-5621-9075 夏目さん（代表）
ホームページ https://bluelakeproject.com